

2024 年ニチメン東京社友会賀詞交歓会・臨時総会・懇親会 来賓ご挨拶

双日株式会社 代表取締役社長 藤本 昌義



皆様、こんにちは。双日社長の藤本でございます。本日は、ニチメン社友会の新年例会にお招き頂き有難うございます。本日皆様とお会いできることを心より嬉しく思っております。

先ず、新年に石川県能登地域で発生した地震、羽田空港で発生した航空機事故と心の痛む災害や事故が起きました。被災された皆様や事故に遭われた皆様へ心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とそのご家族、ご親族の皆様へ心からの哀悼の意を表します。

さて、双日と致しまして、中期経営計画 2023 の最終年度を迎えて、今、第4コーナーを回る所にあります。中計の進捗状況につきましては、昨年 2023 年 3 月期に当期利益 1,112 億円という過去最高益を上げ、今年度の予算として掲げた 950 億円も恐らく達成出来るという所です。4 月から始まる次期中計では 1,000 億円を発射台として、どこまで収益を上げていけるかという議論をしておりますが、それだけ稼ぐ力が付いてきたという所です。まだ大手5社には追いついておりませんが、着実に成長しておりますし、次期中計では「双日らしい成長ストーリー」を追及していくことを掲げています。

また、次期中計を迎えるにあたり、新しい経営体制を発表しました。私も会長・CEO として引き続き経営には関与しますが、植村社長・COO、渋谷 CFO 及び経営企画担当ということで、約 10 歳若い二人に次の舵取りを任せようと思っております。勿論、私も陰ながらサポートさせて頂き、当社として更なる成長を追求していきたいと考えております。

さて、今年は双日発足 20 年目であり、我々としてもどの様な 20 周年行事を行おうかと議論している所でございます。そういった中において、日商岩井、ニチメン東京、ニチメン大阪、双日という4つのグループに分かれている社友会についても、統合から 20 年経過するに際して、一つに統合して一体感のある持続的な運営を図るべきではないかと思ひ、社友会の統合のお願いを昨年致しました。

その後、各社友会のプロジェクトメンバーを中心に、毎週のように意見交換を行いながら、統合に向けた協議や準備を進められているとお聞きいたしました。関係者の皆様のチームワーク・ご努力に感謝いたすとともに、4 月からの統合社友会の発足を心より願っております。

本日は、改めて新年のお祝いするとともに、社友会のますますのご発展と関係者の皆様のご多幸を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。